景観保全とそれを活かした周辺地域の利用を促した事例
事業名　特認事業（地域資源保全活用事業）
市町名　三原市

取組のきっかけ・経緯

・事業地は宇根山を中心に広大な景観が広がり、周辺には国天然記念物の久井岩海・キャンプ場など自然豊かな景勝地等が存在しているが、山林の荒廃が進んでいた。環境整備をすることで、周囲の観光施設の利用客が増え、地域活性化につながることから、事業要望があった。

今後の展開

・令和6年度も引き続き、事業を継続し、環境整備を行うことで、地域活性化につなげていく。

取組の内容

・事業主体：NPO法人宇根山
・実施場所：久井町宇根山
・業務量：2.2ha
・業務金額：6,240,000円
・業務期間：令和5年11月24日
～令和6年3月31日

【整備前】

取組後の感想

【良かった点】
・環境整備を行うことで、森林の手入れが身近となり、住民団体が継続的に森林保全活動を行う意欲が高まった。

【整備後】

桜の名所の山を住民たちの手で整備した事例
事業名　特認事業（地域資源保全活用事業）
市町名　尾道市

取組のきっかけ・経緯

・長い間放置され荒廃していた里山を、地元有志がボランティアで、不要木の伐採や下草刈りなどの整備、桜の苗木を植樹するなど地道な活動を二十数年継続してきた。しかし、放置された里山は広く、樹木の成長も早く、また地元ボランティアでは整備が困難な斜面地もあり特認事業が要望された。

今後の展開

・今回整備した薪割り機や草刈り機をはじめとする備品を活用し、住民による森林整備を行う。
・森づくり事業の取り組みにより高まった、住民の参加意識をさらに向上させながら、継続的な活動として発展させる。

取組の内容

・事業主体：　大迫桜山実行委員会
・実施場所：　大迫桜山（尾道市美ノ郷町）
・業務委託先：　尾三地方森林組合
・業務量：　森林整備　0.25ha
　　森林保全活動5回・講習会等5回
　　備品等整備　一式
　　大迫桜山だよりを発行
・業務金額：　4,209,000円
・業務期間：令和５年８月１日
　　～令和６年３月30日

【森林保全活動】

取組後の感想

【良かった点】
・不要木の伐採など整備面積を広げ、作業道の新設や遊歩道の整備を実施し、安全で訪問しやすい環境づくりを推進できた。
・大迫桜山だよりを発行したことで、事業の必要性や取り組みを地元住民に周知することができた。

【遊歩道・看板設置】

【森林保全活動】

住民主体の森林整備に向けた環境整備を行った事例
事業名　地域資源保全活用事業
市町名　福山市

取組のきっかけ・経緯

・事業地の山林一帯は、権現の森と呼ばれ、古くから地元の方や参拝者に親しまれてきたが、平成30年豪雨により散策道が寸断された。
・当地区では、町内会が構成員となって、主体的に森林保全活動を行っており、本事業をきっかけに、住民の参加と連携による地域活性化を図りたいとの要望があった。

今後の展開

・急勾配となった歩道箇所が多くあり、階段工事や転落防止の踊場スペース、手摺などを設置する。
・町内会の総会等で事業内容を報告し、住民が主体となって、下刈り等の森林整備を行っていく。

取組の内容

・事業主体：権現の森整備実行委員会
・実施場所：福山市駅家町服部本郷地区
・業務量：歩道整備　428m
・業務金額：3,216,000円
・実施期間：令和5年8月1日
～令和5年12月31日

取組後の感想

【良かった点】
・歩道整備により、周辺の雑木林の除伐や下刈り作業がとても楽になった。
・これまでは散策道が寸断され通ることができなかったが、歩道整備により、頂上の権現神社に正月初詣で参拝することができるようになった。

竹林間伐や桜の植樹を通じて里山を復活させることにより、地域住民との交流を深めるいこいの場をつくった事例
事業名：里山保全活用支援事業
市町名：東広島市

取組のきっかけ・経緯

・地域住民が交流を深めることができるいこいの場を作るとともに里山の復活を目指す。

今後の展開

・間伐だけでなく林道を整備し誰でも山に入れる状況にし、森林浴ができるようにするなど、住民が楽しめる「いこいの森」を目指す。

取組の内容

・事業主体：　大道山竹炭工房
・実施場所：　東広島市河内町中河内
・業務委託先：　ー
・業務（実施）量：　111人
　①樹木間伐及び林道整備
　②竹の間伐及び竹チップ作りによる竹林整備
　③下刈りによる里山整備
　④桜の植樹
　⑤チェンソー実技講習会
　⑥森林調査
・業務金額（事業費総額）：783,000円(811,000円)
・業務（実施）期間：令和5年7月1日
　　～令和6年3月17日

【活動の様子】

取組後の感想

【良かった点】
・間伐や下刈りなどを通じて里山の保全活用につなげることができた。
・チップ化した竹を発酵させることにより有機肥料ができ、農地での利活用につながった。
・里山整備を継続することで地域住民が交流を深め、楽しめる場づくりを目指す。

【活動の様子】

地域住民等と連携した取組事例
事業名　特認事業（地域資源保全活用事業）
市町名　安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

・八千代湖畔で、たくさんの観光客が訪れる中、史跡である「田屋城址」が荒れており、山へ入ることができなかった。
　有志で「蘇らせる会」を結成して約１年、なんとか主郭まで安全に登れるようになったが、訪れた方がじっくりと腰を休める場として整備するために、「さとやま土師田屋城址を守る会」と名前を改め、ひろしまの森づくり事業を活用し広島工大の学生ボランティア達の支援を受け「花木に埋もれた自然の森」を目指して、田屋城址を整備している。

今後の展開

・田屋城址の登山道の整備、害獣対策はほぼ終えた。今後は、田屋城址から出て寺社跡や五輪塔群、古墳群を要する天の岩県営林の 「史蹟探索と森林セラピー遊歩道」を整備していく予定である。
・田屋城址の東側の森に小鳥の巣箱を増設、西側の「かぶと虫の森」と併せて子供達の楽園を整備する予定である。
・年に一度は鶴学園八千代校舎において森にかかわるイベントを開催する予定である。

取組の内容

・事業主体: さとやま土師 田屋城址を守る会
・実施場所: 八千代町土師
・業務委託先：ひろしま人と樹の会ほか
・業務実施量：0.5ha
・業務金額（事業費総額）：5,989,750円
・業務実施期間：令和5年7月～令和6年3月
・登山道の整備、周辺にライラック等の植樹を行った。
・雑木の除間伐を行い山城の見える化を図り、登山道に沿って東側の森に「小鳥の国 やちよ」西側に「かぶと虫の森」を整備した。
・山城全体を害獣柵で防御、更に登山道の入口には「猪ふまず」や「しし防」を敷設した。
・令和3年の豪雨災害で崩落した田屋城址西側の護岸を修繕した。
・フォーラム：鶴学園八千代校舎にて「史蹟探索と森林セラピー遊歩道」フォーラムを開催した。
・標識整備：田屋城の史蹟探索、森林セラピー遊歩道に道標や歴史説明看板を設置した。

取組後の感想

【良かった点】
・「かぶと虫のドーム」だけでなく田屋城址の森のあちこちに「かぶと虫の屋」が完成し、5月には広島市内の子供会が第二回「かぶと虫の採取会」を開催する予定である。
・田屋城址の東側の森には「小鳥の国 やちよ」が完成し「ひろしま 人と樹の会」でしかできない大型の巣箱が天空にいくつも設置された。今後、仏法僧など大きな鳥の巣作りが期待されている。
【悪かった点】
・かぶと虫のドームに椎茸のほだ木を百本並べたが、日よけ、湿度、天地返し、しけ打ちやほだ叩きを知らず一年目を棒に振った。慌てて専門家の指導を受け、この秋には子供たちの歓声が森にこだまするよう豊作を願っている。